

記入式  
お葬式便利シート集



お葬式のリスクマネジメント&サポート

Relief

葬儀相談員 市川 愛

info@re-lief.com

<http://www.re-lief.com>

## ごあいさつ

こんにちは。葬儀相談員の市川です。

この度は、お葬式便利シート集をご覧いただき、ありがとうございます。

このシート集は、2005年にいただいたある一通のメールがきっかけで生まれました。

何よりも先に、そのきっかけとなったメールの内容を抜粋し、ご紹介させていただきます。

自分達夫婦の葬式は、娘に迷惑をかけないように準備しておきたいと話し合い、テレビで見た■■のエンディングノートを買いましたが、私の葬式への希望と、財産と、これまでの経歴など、、、はまとまったものの、肝心の葬式本体への準備方法が分かりません。

葬儀社は何を気を付けておれば、悪徳業社にあたらぬか、間違えなく希望通りの葬式になるのか、分かりませんし、これまで何もして来ませんでしたので、見当も付きません。何をどの様に気を付けて用意して居れば良いか、ご教授願えませんでしょうか。

私はこのメールを読んで、まだまだ沢山のことが足りていないということを感じました。

それまでは、面談されたご相談者の方だけに、それぞれの状況で作成したオーダーメイドの準備シートをお渡ししていたのですが、それはごく一部のご相談者だけに向けたもの。

そうではなく、もっと誰もが使えるような汎用的なものを作る必要性を強く感じたのです。

- 人生を振り返るようなありがちな内容ではなく、もっと実践的・実用的なもの。
- そして、家族の葬儀を考えなければならなくなったときに、初心者でも頭を整理しながら考え・行動できる内容のもの。
- 何よりも重要なこととして、葬儀社をしっかりと選び、選択ミスを予防できるようなもの。

まず、このような、私が「あったらいいな」と思ったコンセプトを考えました。

次に、このシートの原型といえるものを作成し、56名のモニターの方々に見て頂いたんです。

しかし、ご意見を頂いた結果は、

「使われている言葉が難しい」「素人には少し高度過ぎる」「項目の意味がよく分からない」などなど……。まだとても世に出せる内容ではないことが分かりました。

でも、それと同時に、皆さんが真剣に考えた、たくさんの良い提案を頂くことが出来たんです。

それから約1カ月半。試行錯誤の末にようやく完成したのが、このシート集です。

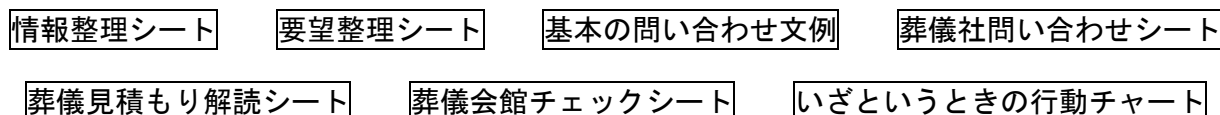
このシート集は、お葬式を具体的に準備し、実際に葬儀社へ問い合わせ、選択し、お葬式をあなたの希望通りに成功させるためのサポートツールです。

何度でもプリントアウトし、書き込めるように、無料でダウンロードしていただけるようにいたしました。ぜひ、存分にご活用下さい。

## このシートセットの使い方

内容に入る前に、まずはこのシートセットの使い方をご案内しましょう。

このお葬式便利シートセットは、



以上の7種類のシートと、記入方法がセットになった内容です。

それぞれ単体で利用しても有用なものですが、せっかくですので、私が考える「シートを使った最も効果的なお葬式の準備方法」をお伝えしておきますね。

- 1) まずはじめに、全部をプリントアウトして、最後まで目を通して下さい。  
要望を考えてから葬儀社を選択するまで、大体の流れが見えてくると思います。
- 2) お葬式の細かな要望を具体的に考え始める前に、**情報の整理**をして下さい。  
お寺との付き合いがあるのか、喪主は誰の予定なのか、お葬式を知らせる人数はどれくらいなのかなどなど。細かな要望を考える前の段階でクリアにしておく、後で考えをまとめやすくなります。
- 3) **要望整理シート**に記入していきます。  
全部分からなくても大丈夫です。分かるところから順番に埋め、  
すぐに埋まらないところはゆっくり考えながら記入して行ってください。  
あなたの要望を自分で確認するという意味でも、ここはとても大切な作業です。  
慎重に進めましょう。
- 4) **基本の問い合わせ文例**を見ながら、あなたの情報に置き換えてみて下さい。  
葬儀社に聞いておきたいことや、確認したいことなどは、必ずメモを取っておきましょう。
- 5) ここで一旦シートからは離れてください。そして、インターネットや電話帳を利用して、あなたの要望に合っていそうな葬儀社を2・3社ピックアップします。

自社斎場を持っている葬儀社を希望するなら、斎場の場所。

あなたの希望が密葬なら、密葬というキーワードを載せている葬儀社。

HPを見る場合は、画面の雰囲気やHP自体の出来にも留意して下さいね。  
実際に葬儀社へ行ってみると、結構な確率でHPと雰囲気が合っていたりしますから。

- 6) 文例集を見ながら、ピックアップした葬儀社に電話をかけましょう。  
手元には、**これまで書き込んだシートと、葬儀社問い合わせシート**を忘れずに用意して下さいね。チェックしながら電話するのが忙しいという方は、電話が終わってからでもまったく問題ありません。  
**通信簿**をつけるつもりで、忘れないうちに書き込んでしまいましょう。

対応に問題がなく、見積もりを送ってもらうことになったら、ちょっと一休み。  
見積書が届くのを待ちます。  
葬儀社ごとにシートを用意して、クリアファイルなどに分けておくと後々便利です。

- 7) 葬儀社から見積書が届いたら、電卓を用意して、**葬儀見積もり解説シート**に、項目と金額を写して行って下さい。

お願いした葬儀社全てから見積書が届いて、それぞれをシートに写し終わったら、次は比較検討する作業に入ります。

金額はもちろん比べますが、問い合わせの時の通信簿も参考にして下さいね。  
テストの点数と同時に内申書でも検討するようなイメージです。  
数万円の違いだったら、内申書を優先してください。見積もりはあくまでも見積もり。  
削ったり増やしたりはつきものですから、ここは対応重視で行きましょう。

- 8) 有力候補が挙がってきたら、葬儀社と実際に会って、会館を見学してみましょう。  
会館を持っていない葬儀社の場合は、事務所へ伺って下さい。いわば家庭訪問です。  
会館チェックシートを持って、しっかりチェックしましょう。

見積もりではよく分からない祭壇イメージも、写真資料などを見せてもらいながら明確にして行って下さい。不安次項や細かな希望もどんどんお伝えして、出来る限りクリアにするようにして下さい。

- 9) ここまででの段階で、あなたがストレスを感じなかったという葬儀社さんは、ひとまず合格をあげてもいいですね。しっかり信頼関係を築いて下さい。  
いざというときは、担当者へ一本電話をかけるだけという状態にしておく、精神的にもかなり楽になります。

シートを使った準備方法の紹介は以上です。  
それでは、本編に入っていきます。

# 1. 情報整理シート

## ◆ 情報整理

情報を整理しておくということは、とても大切な作業です。

すぐに全部は埋まらないかもしれませんが、今すぐに全部記入しなくても大丈夫。

折をみて確認しておいて下さいね。

宗旨・宗派は、葬儀社さんが祭壇などをセッティングする「もと」になる情報です。

菩提寺（ぼだいじ＝代々のお墓があるお寺）の有無や、連絡先も控えておきましょう。

趣味・略歴という項目は、司会者が故人を紹介するときに必要になります。

お葬式前のバタバタした時間では、なかなかうまくまとまりませんので、時間があるときにまとめておくといいでしょう。

## パーソナルデータ

氏名	
生年月日	年 月 日 満 歳
住所	
家紋	
宗旨・宗派	
菩提寺	名称： 連絡先：
喪主予定※	
施主予定※	
趣味・略歴	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

※喪主とはお葬式以後故人を供養する代表者のことで、施主とは葬儀の費用を支払う者のことです。

1人が両方を兼ねることも多くあります。

## まわりの方々について

おおまかな人数を把握するために記入する表です。

関係の近さでグループ分けをし、知らせる・知らせない（呼ぶ・呼ばない）を決めます。

ここをしっかりと考えておくと、お葬式の規模が分かりますので、より実際に近い見積もりをお願いすることができます。

お葬式を知らせる人数＝参列者の数って、実は費用に直結している重要事項なんです。

参列者の数が多いと、斎場も大きくなりますよね。

斎場が大きいと、飾る祭壇も大きくなるんです。

大きな祭壇ということは、大きな費用ということでもあるんです。

そのほかにも、お料理の数なども費用に直結しますよね。

このシートは、知らせる・知らせないをよ～く考えて下さいね。

年賀状のやり取りなどを参考にすると分かりやすいかもしれませんよ。

家族		名	
親戚	約	名	知らせる・知らせない
親しい友人	約	名	知らせる・知らせない
知人	約	名	知らせる・知らせない
仕事関係	約	名	知らせる・知らせない
ご近所の方	約	名	知らせる・知らせない
その他 ( )	約	名	知らせる・知らせない
合計	約	名	



## 2. 要望整理シート

### お葬式の内容

要望に合った項目を考えながら、○を付けてみましょう  
これが、葬儀社へ伝える要望の基本となる内容です。

**形式**とは、お葬式のスタイルです。ご住職にお経をあげてもらうなら仏式。神道なら神式というように、宗教の形に関係しています。

**希望斎場**を考える際には、優先順位もあわせて考えておきましょう。公営斎場は安価ですが、混み合っていることもあります。その場合、第二希望はどうしたいのかまでを決めておくスムーズです。斎場の見当がつかない場合は、葬儀社さんに聞いてみて、希望に近い斎場を提案してもらえば大丈夫です。

**立地**は会葬者がどこから来るかをポイントに考えてみましょう。ご近所からの会葬者が多ければ自宅近く。遠くからの方が多ければ駅の近くなどです。

それでは書き込んでみて下さい。

形式	仏式・神式・キリスト式・無宗教式・その他( )
宗教者	菩提寺有・菩提寺なし(葬儀社などへ手配依頼)・呼ばない予定
希望斎場	自宅・公営斎場・民間貸し斎場・葬儀社・寺院・集会所 その他( )
斎場の立地	自宅近く・( )駅の近く・その他( )
搬送先	自宅・斎場・その他専用施設 ※病院→搬送先の距離 約 km
規模(人数)	10名以下・10～50・～100・～150・～200・～300・300名以上
祭壇	質素に・人並みに・華やかに ※希望のスタイル 白木祭壇・花祭壇
予算 (葬儀全体で)	～100万円・～150万円・～200万円・～250万円・300万円以上
その他 (自由に要望を 記入)	祭壇花の種類・お料理の内容・返礼品の内容・棺に入れたいものなど自由に。



### 3. 基本の問い合わせ文例

このシートでは、あなたが実際に葬儀社さんへ問い合わせの電話をするときに、「何をどういう言葉で伝えればいいのか」「どんなことに注意すればいいのか」を中心にまとめました。

文例をあなたの状況に置き換えながら、問い合わせの際の参考にして下さい。

#### ◆ 電話をかける前に —— 注意点

葬儀社へ電話をかける前に、確認しておきたいことがあります。

それは、あなたは今から電話をする葬儀社に、お葬式を依頼するとは決まっていない。ということなんです。

これからかける電話の目的は、

「見積りをとること」と「葬儀社の対応をチェックすること」この2つです。  
あなたの要望を伝えて、葬儀社に見積書を作ってもらい、検討材料の一つにする。  
こういう考え方で望みましょう。

電話の前にちょっと一呼吸。以下の4つを確認しておいて下さいね。

- 1) 住所などの個人情報は、あなたが想像する以上にゆるく管理されています。  
**最終的に対応が良いと判断でき、見積りを取る事になってから開示しましょう。**
- 2) 葬儀社の電話の機種によっては、**着信番号が表示されるのはもちろんのこと、履歴もしっかり残ります。**葬儀社によっては、折り返し営業の電話がかかってくることも。  
電話番号を知られたくない場合は、**非通知（184発信）**でかけましょう。
- 3) 言っておきたいことがあっても、話しているうちについすっかり忘れてしまうものです。  
**要望をまとめて記入したシートを確認しながら、ゆっくり話していきましょう。**
- 4) 目的は「見積もりをもらうこと」と「葬儀社の対応をチェックすること」ですから、  
**あなたが上手に話す必要は全くありません。**  
伝えたいことは何度でもしつこく言いましょう。  
聞き間違いが起こらない分、葬儀社にとってもありがたいことです。

## ◆ 見積り依頼をするときの文例集

葬儀社さんに電話をかける時は、基本は以下の内容のまま、あなたの状況に置き換えて伝えて下さい。声に出して読んでみてから問い合わせをされるといいですよ。リハーサルは肝心です。

---

『〇〇と申します。電話帳を見てお電話しました。

身内の葬儀のことでお話したいのですが、**詳しくうかがえる方はいらっしゃいますか？**』

※電話口が事務員さんだった場合、詳しい話はよく分かってもらえません。

必ず**葬儀の担当者**に代わってもらうようにしましょう。

---

『実は、まだ先の話しではあるのですが、**万が一のために葬儀を検討している状況**なんです。

あまり費用もかけられないので今から調べているのですが、

**お宅では事前の段階で、見積りを出していただくことは出来ますでしょうか？**』

※「事前の相談ということ」「費用を気にしていること」「事前見積もりを希望していること」

この3つを**最初に**しっかりとお伝えしましょう。

---

『では、**こちらの要望をお話ししますので、メモして頂いてもよろしいでしょうか？**』

※葬儀社のお話を聞くのではなく、まずはあなたの要望を聞いてもらいましょう。

メモを取ってもらうのは、**的外れな提案を避けるために、とても大切な作業**です。

---

『まず、形式は仏式で・・・、規模は親族中心で50名くらいで・・・、斎場を借りて・・・、  
斎場の場所は〇〇の近くが希望で・・・、安置は自宅で ——— 』

※**ゆっくりと一つずつ、要望整理シートにチェックをつけながら**、伝え忘れのないように  
気をつけてお伝えしましょう。

---

『斎場の場所なんですが、△△駅の近く（又はなるべく安いところなど）が希望なんです。  
どんな斎場がありますか？  
あわせて使用料金も知りたいので、見積もりの中でいくつか提案していただけますか？』

※葬儀社さんの提案力を知ることができます。自社斎場を持っている場合は、自社斎場以外に提案できる斎場があるのかも聞いておくと安心ですね。

---

『お願いなんですが、総額を知りたいので、  
飲食や返礼品は50名分、搬送も10km以内と仮定して、  
実費も全部含めた、それ以上の追加がない内容の見積もりにして下さい。』

※これはとっても大事な一言です。忘れずにお伝えするようにしましょう。  
葬儀一式の費用だけが書いてある見積もりをもらっても、「家計から出て行く総葬儀費用」は把握できませんよ。

---

『送り先は私の勤務先でお願いします。それではよろしく願いいたします。』

※ご自宅が都合悪ければ、勤務先などを指定しましょう。  
あなたの個人情報を全て開示するのは、見積もりを検討した後でも遅くはありません。

---

#### ◆ その他要望例

あなたの状況にあわせた「細かな要望」は、考えるといろいろ出てくると思います。  
忘れずにお伝えしましょう。

『葬儀社さんだと分からない封筒で送って下さい。』

『個人名で送って下さい。(電話して下さい)』

『〇〇時ちょうどにFAXして下さい。』

『家族に知られたくありませんので、今後も私のほうから連絡します。』

『花祭壇と白木祭壇、両方の見積りをお願いします。』

『自宅での安置ができないのですが、どんな方法がありますか？』

『お寺のつてが無いのですが、お宅では紹介していただけるのですか？』

『それは、どこのどんなお寺ですか？お布施はどれくらいですか？』

◆ こんなことで困ったら・・・

最高の対応をしてくれる葬儀社さんばかりとは限りません。  
困った時の応酬話法も知っておいて下さいね。

- こちらの話しを聞かずに、一方的に説明される  
『すみませんが、いっぺんには理解しきれませんので、  
まずは私の話しを聞いてもらえますか？』
- 友の会などをすすめられた  
『見積りの内容を検討した後で考えますので、  
まずは見積りをお願いします。』
- 対象者や病院名など、言いたくないことを聞かれた  
『ちょっと言いたくないんです。すみません。』  
『(しつこい場合) それをお教えしないと、見積りは出してもらえませんか？』
- 担当者が不在のため、折り返し電話すると言われた  
『折り返しの電話はちょっと困るので、こちらからまたかけます。  
担当の方がいらっしゃる時間を教えて下さい。』
- 話す内容に詰まった・葬儀社のペースですすんでいる  
『すみません少々お待ち下さい。(保留して深呼吸)  
お待たせしました。(もう一度最初から話す)』
- オールマイティな一言  
『この件で相談している葬儀相談員の方がいるので、  
どうすればいいかを聞いてみてから、またご連絡します。』



◆ その他注意点

相談のときの担当者の対応が、そのまま本番（お葬式）のときの対応になります。

そのことも意識して、お葬式の内容や金額だけではなく、担当者の人柄や雰囲気にも注意してみましょう。

にチェックを入れましょう。3つ以下の場合は、もう一度よく考えて！

- こちらの話を聞く姿勢があったか？
- 聞きたいことにしっかり答えてもらえたか？
- ストレスに感じるような営業はなかったか？
- 必要以上の個人情報をしつこく聞かれなかったか？
- 「ここにならお願いしてもいい」と思えるような対応だったか？
- 自分と合いそうな人柄に感じたか？

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

## 5. 葬儀見積もり解説シート

複数の葬儀社を見比べる際や、参列人数による金額の変化を知る際に便利なシートです。  
お手元の葬儀見積もりの項目と金額を、右の項目分けを参考に下記の表に書き写して下さい。

参列者を招いて行なう、一般的な仏式のお葬式に必要なものは、青字表記してあります。  
黒字のものや、表記していないものは、状況に応じて変わるものやオプションと考えて下さいね。

### ◆ 葬儀費用 (A)

項目	金額
祭壇一式	¥
棺一式	¥
ドライアイス（自宅安置）	¥
枕飾り（後飾り）	¥
骨壺	¥
遺影写真	¥
看板	¥
提灯・門飾り	¥
司会進行	¥
手続き代行	¥
その他人件費 ※祭壇一式に含まれるケースが多い	¥
受付備品	¥
斎場使用料（葬儀社斎場の場合）	¥
	¥
	¥
	¥
	¥
<b>葬儀費用合計 (A)</b>	¥

「葬儀費用」とは、お葬式そのもの（葬儀本体）にかかる費用のことです。  
チラシや広告に書いてある「葬儀一式〇〇万円」というものは、ここの項目だけを指していることが多く、決してお葬式にかかる総額ではありません。よく注意して下さい。  
ここに書かれている細かな項目は、葬儀社によっては「祭壇一式」といったパックに含まれていることもあります。このような表記方法が違う見積もりどうしを見比べる時は、パックの中に何が含まれているかを確認してから、項目と葬儀費用合計を見比べて下さいね。

◆ 実費費用 (B)

項目	金額
飲食費 予想 名	¥ (単価 )
返礼品 予想 名	¥ (単価 )
安置保管料 (自宅安置以外)	¥ (一泊 )
火葬料	¥
火葬場待合室使用料	¥
搬送車 (病院→安置場所)	¥
霊柩車 (斎場→火葬場)	¥
マイクロバス	¥
花束	¥
祭壇飾り生花	¥
供花	¥
斎場使用料 (葬儀社斎場以外)	¥
骨壺 (火葬場購入の場合)	¥
湯かん	¥
貸し布団	¥ (一組 )
	¥
	¥

実費費用合計 (B)	¥
------------	---

「実費費用」とは、葬儀周辺にかかる費用のことです。  
 通夜振る舞いなどのお料理や返礼品などの「会葬者へかかる費用」、霊柩車などの「移動にかかる費用」、貸し斎場や火葬場などの「施設利用にかかる費用」、祭壇を飾る供花など、  
**葬儀社が自社で用意せずに、業者を手配して、料金を立て替えながら提供する項目を指します。**

お料理や返礼品は、会葬者の人数で総額が変わりますので、単価と人数ごとの数字を、両方とも把握しておきましょう。



◆ お布施 (C)

お布施 読経・戒名・お車代	¥
---------------	---

菩提寺がある方は、これまでのお布施の額を親戚の方などに聞いてみて下さい。  
葬儀社さんから紹介していただく場合は、葬儀社さんが目安を教えてください。

菩提寺が無い方や、どうしても分からないという方は、大体の目安として、喪主の年収の10%弱くらいの金額で、ご住職にお伺いをたてましょう。

「この度のお布施ですが、読経と戒名あわせて、〇〇万円をお願いできませんでしょうか？」  
というような形です。ていねいにお伺いをたてるというスタンスをお忘れなく。

お車代とは、ご住職が自ら現地へ足を運んだ場合にお渡しします。  
2万円程度お包みするとていねいな形になります。

お布施を包む袋は、葬儀社さんが用意してくれます。

◆ 総合計

総葬儀費用 A+B+C	¥
-------------	---

葬儀見積もりを読む時は、総額だけを見ても、個別の金額だけを見てもダメなんです。  
葬儀費用、実費費用、総額、この3つの数字を出して読んでくださいね。

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

## 6. 葬儀会館チェックシート

主に葬儀社の自社斎場を見学する際に、チェックしたい項目を書き出したシートです。  
葬儀社見学の主な流れごとに、チェックしたい代表的な項目を15個ご紹介しています。  
項目ごとに合格の場合にチェックをしていって下さいね。

### ◆ 会館到着

1. 立地・交通の便は希望の範囲内だったか？
2. 会館周り・外観は掃除が行き届いているか？
3. 担当者のあいさつは好感が持てたか？
4. ロビーは清潔か？
5. 駐車場は十分にあるか？

### ◆ 事前打ち合わせ

6. 見積もりで不明な点はクリアになったか？
7. 内容がイメージできるような写真は見せてもらえたか？
8. 資料には明確な金額が書いてあったか？
9. 説明者と実際の葬儀担当者は同一人物か？
10. 誠意を持って、一生懸命対応してもらえているか？

### ◆ 会館見学

11. 明るく、清潔にされているか？
12. 控え室は、人数分の広さが取られているか？
13. 宿泊のための設備は整っているか？
14. 祭壇が飾りっぱなしの場合、薄汚れた感じはしていないか？
15. トイレは清潔か？

## 葬儀会館チェックシートの解説

### ◆ 会館到着 1～5

葬儀社へ出向いてみると、その葬儀社の雰囲気は肌で理解できます。

ここでは主に第一印象がどう感じたかと、斎場の見た目（新しさではなく、清潔さ）をチェックしましょう。

あなたが「ちょっと暗いな・・・」とか、「空気が悪いな・・・」と感じたとしたら、気のせいではありません。そういう会社（社風）なんだと思って、早めに見切りをつけましょう。

現実には、ろくにあいさつができない担当者もたくさんいますので、基本的なことが出来ているかをちゃんと見ておく必要があるんです。

駅からの立地や、駐車場などのハード面を確認することも忘れずに。

### ◆ 事前打ち合わせ 6～10

事前見積もりを取った内容を、担当者に写真などを見せてもらいながら、一から説明してもらいます。祭壇の写真はもちろん、棺、骨壺、お料理など、しっかりイメージできるようにどんどんリクエストして見せてもらいましょう。お葬式全体の流れもしっかり把握して下さい。

見積もりが手書きで、パンフレットに明確な金額が書いていない場合は、ちょっと要注意です。いくらでも操作できてしまう資料しかない場合は、多めに見積もられているかもしれません。

ここでは見積もりで分かりづらかったところ、不安に感じたことは、率直に何でも聞くようにしましょう。丁寧に一つ一つ答えてくれる良い担当者かどうかチェックできます。

この説明者が、実際のお葬式で担当してくれる方なのかを、必ず確認して下さい。

担当者以外といくら細かな打ち合わせをしても、あまり意味がありません。

伝達ミスは必ず起きます。葬儀担当者に同席してもらおうようリクエストしましょう。

### ◆ 会館見学 11～15

ここでは、斎場と控え室の様子をチェックします。

お葬式の斎場とはいえ、通常は明るく、清潔にされているべき場所です。

空気がこもっていたり、異臭がするような場合は、それだけ使用されていない上に、掃除も満足になされていないということです。

ゴミが落ちていたり、ホコリがたまっているような場所は避けましょう。

細かいようですが、トイレチェックは忘れずに。意外とその葬儀社の実情が見えたりします。私の経験上、会館が清潔でキレイに掃除されている葬儀社は、どこもしっかりとした仕事をしてくれます。

#### ◆ 判断基準

各設問につき4つ以上の合格チェックが入るか、全体の7割以上の点が取れたら、安心できる葬儀社さんと言えます。

ここで、最後のチェック項目です。

その葬儀社さんに、お願いしようと思えますか？

「はい」と答えられたあなた、本当にお疲れ様でした！  
いい葬儀社さんにめぐり合えたようですね。

その担当者さんに一本お電話をして、万が一の際の連絡先を聞いておいて下さい。  
いざというときは、電話一本するだけで動いてもらうようお願いしておきましょう。

葬儀社名： \_\_\_\_\_

担当者名： \_\_\_\_\_

連絡先： \_\_\_\_\_

## 7. いざというときの行動チャート

このシートを使って準備したことを仮定して、お通夜の前までを記した行動チャートです。  
地域によって多少の差はあるかもしれませんが、これが平均的な流れです。参考にされて下さい。

① 事前に準備をして、要望に合った葬儀社を選定し、万が一の際には電話をかけるだけにしておく。

① 準備しない状態で急にお亡くなりになった場合は、あせらずに、まずは安置の場所を決め、葬儀社へは「ご遺体を搬送してもらおうところまで」をお願いしましょう。  
  
その後は、今回の手順をできる範囲で行なって下さい。

② 自宅でお亡くなりになった場合、かかりつけのお医者様がいる場合は医師へ、いない場合は警察へ連絡します。

② 病院でお亡くなりになったら、打ち合わせ済みの葬儀社へ電話をかけ、すぐに病院まで迎えに来てもらい、安置の場所へ搬送。

④ 事前見積もりを照らし合わせながら、内容の最終決定をする打ち合わせです。  
  
喪服のレンタルなどを利用したい場合は、この時にお願いしておきます。  
  
ここにサインをすると、契約が成立します。

③ 死亡診断書と認印を葬儀社の担当者へ預け、役所関係の手続きをしてもらう。

③ 自分でも手続きは出来ませんが、葬儀社さんをお願いしたほうがスムーズです。三文判でOKですので、用意しておきましょう。

④ あらかじめ決めておいた見積もりを題材に、最終打ち合わせに入る。菩提寺へ連絡し、日程が決まったらすぐに斎場・火葬場の予約をとってもらう。

⑤ 斎場・火葬場の予約が取れ、葬儀の日程が決まったら、あらかじめ決めておいた連絡の範囲に葬儀の日程などを連絡する。

⑤ 緊急連絡先リストにしるしをつけながら連絡しましょう。  
  
供花の受付もこの時に行ないます。

⑥ 写真は 2cm くらいの大きさでも十分引き伸ばせますので、故人らしい良い表情をしている写真を選びましょう。  
  
初七日のタイミングも、忘れず確認しておきましょう。告別式と一緒にする形と、火葬終了後にする形があります。

⑥ 写真の用意や、お葬式の細かな進行を打ち合わせする。

⑦ 生前の愛用の品など、お棺の中に入れてたいものを、事前に用意しておきます。  
  
金属・プラスチック類などは入れることができません。

⑦ 納棺の儀式を行なう。

⑧ 斎場に宿泊する場合は、その準備も忘れずに。

⑧ 出棺し、通夜の会場へ向かう。

## あとがきに代えて

ようやく一段落しましたね。いかがでしたか？

慣れないことだらけで、お疲れになったかもしれませんね。お疲れ様でした。

ここまで行動して、今の気持ちはどうですか？

「いくらかかるんだろう・・・」という漠然とした不安や、「変な葬儀社にあたったら・・・」と想像で苦しむことは、きれいさっぱり無くなっているのではないのでしょうか？

まだ気付いていないかもしれませんが、今あなたの中では、それはもう劇的な変化が起こっているのですよ。劇的な変化、それは、**あなたの葬儀社を見る目は、確実に肥えている。**ということなのです。

こればかりは、いくら冠婚葬祭本を読んでも、インターネットで葬儀のサイトを検索しても、テレビを見ても、新聞を読んでも、なかなか身に付きません。

今回あなたがしたように、お葬式を真剣に考え、葬儀社に問合せをして、比較検討してみれば、いい葬儀社・相性のいい葬儀社が分かるのです。

良心的な葬儀社さんを判断する材料は、人のうわさでもありませんし、マスコミに出ているからでもありません。ましてや、広告の大きさや会社の規模なんかじゃ、ぜんぜんありません！

判断するのは、あなたの目であり、感じた印象であり、あなた自身です。

あなたが希望した内容を、どれだけ真剣に叶えようとしてくれているかを、あなたも真剣に判断してください。そうすれば、必ず納得のいく内容でお葬式をあげることができます。

もし、不安なことや、分からないことがあるようでしたら、いつでもご相談下さいね。あなたが後悔なく、素晴らしいお葬式をあげられることを、心からお祈りいたします。

Relief  
葬儀相談員 市川 愛  
info@re-lief.com  
<http://www.re-lief.com>